

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立久留米聴覚特別支援学校

自己評価				
学校運営計画(4月)				評価(総合)
学校運営方針	子どもや保護者のニーズに応じた専門性の高い教育を提供し、挑戦する意欲や規範意識、自己肯定感、社会性、学力・体力を有する聴覚障がいのある子ども(パワフルキッズ)を育成する。そのために教職員自らが子どもに対する深い愛情と主体性、向上心をもち、教育力向上へのたゆまぬ努力を続ける。			A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標		
【成果】学校保健研究大会の主催により、学校保健教育の充実に寄与することができた。聴覚障がい教育夏期講習会等でセンター的役割を果たすことができた。 【課題】幼・小・中の一貫した言語環境の整備と言語活動の充実及びPDCAサイクルに基づく授業改善を図る。	学力・体力の向上	「生きる力」の育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実現、学力向上のための授業改善、読書活動の推進、外国語・外国語活動の充実、ICT教育の推進、県内外の競技会への積極的参加及び運動活動の推進、遊ぶ時間の確保等を通して、学力・体力の向上を図る。		
	言語力・コミュニケーション力の向上	日本語の読み書き力の向上を目指した授業改善、「話し合い」活動の充実、「言葉の時間」の充実、豊かな手話表現習得を目指す場の設定、ろう者や聴者と関わることによるコミュニケーション力の育成、体験活動の推進を通して、言語力・コミュニケーション力の向上を図る。		
	障がい認識・自己肯定感・規範意識・社会性の向上と危機管理体制の強化	障がい認識を育む教育の推進、キャリア教育・人権教育・道徳教育の充実、生徒指導の充実、パワフルキッズタイム(小・中)の充実、ライフスキル教育の実践、危機管理マニュアルの見直し等を通して、社会性等の向上と危機管理体制の強化を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度主な課題
教務部	教育課程や学校行事等を精査しながら質の向上を図るとともに、校内での連携を深め、よりよい教育活動づくりに努める。	・質を重視した効果的な教育課程の編成に努め、授業実施状況の改善を図る。【特別活動、自立活動の時間の運用】	A	・重複学級の教育課程(類型化)の実践・検証 ・業務内容の精選、業務分担の見直し ・校舎改築に伴う教育活動や学習環境の整備、行事の検討 ・PTA活動の検討
		・幼稚部の重複学級設置に伴い、各学部において、重複学級の教育課程を検討し、実践する。	B	
情報教育部	教員のICTリテラシー・スキルの向上を図って児童生徒の深い学びの充実に努める。また、情報発信等におけるデジタル化・ペーパーレス化を推進する。	・ロイノートや児童生徒の実態に応じた各種アプリの活用を図るために、6月から8月に職員研修を実施する。【3回実施予定】	A	・各学部のホームページの月に1回以上の更新 ・年度初め・夏季休業期間などの研修会の実施、授業におけるICT活用能力の更なる向上 ・ロイノートに代わる黒板アプリの検討と導入 ・お知らせ等のペーパーレス化とFormsの活用促進
		・HPで学校情報を発信するとともに、保護者へのアンケートや各種案内についても安心安全メールとHPを活用して、可能な限りペーパーレス化を図る。【毎月】	B	
研修部	聴覚障がい教育の専門性、保育及び教科指導力の向上を図る。	・学部研修を設定し【学期2回以上】、学校研究の方向性を明確にする。	B	・夏期講習会について(実施の有無、内容) ・専門研修を含む年間研修計画の見直し ・持続可能な学校研究組織の構築
		・夏期講習会【夏季休業中に1回】、手話研修【年間10回以上】を計画・実施し、聴覚障がい教育の専門性の継承、発展を図る。	A	
生徒指導部	規範意識を高め、主体的に行動できる力を高めるとともに、互いを思いやり、自他の良さを認め合う人間関係を育む。	・小中学部合同集会「パワフルキッズタイム」及び関連する取組を通して、児童生徒の主体的な活動を促す。【毎月】	B	・児童生徒会役員だけでなく全ての児童生徒が主体的に取り組むことのできる活動の工夫(目標を意識する声かけ、掲示の工夫) ・パワフルキッズタイム以外の活動の充実と周知の方法 ・生活アンケートに出ていない問題の早期発見と対応、情報共有
		・日々の行動観察や月1回の学校生活アンケート、学期に1回のいじめに特化した無記名アンケートをもとに、いじめ等の早期発見に努める。【いじめ等の問題の報告漏れゼロ】	A	
保健部	一人一人の心身の状態に応じた保健指導の充実に努め、心身ともに健康な幼児児童生徒の育成に努める。	・食に関する指導の全体計画を見直し、職員に周知して指導に生かすことができるようにする。	B	・食に関する指導の全体計画を見直すための学習内容、行事等の洗い出しと教科間関連の検討 ・委員会活動や日常生活における安全、清潔への意識を高めるための指導の工夫
		・幼児児童生徒が身の回りの清潔を意識することができるように、委員会活動や学部清掃活動などを通して環境整備を行う。	A	
進路・相談支援部	関係機関との連携を図ることで保護者も含めたキャリア教育を推進し、障がい認識を深める取組の充実を図る。	・専門性の向上、継承のために職員のニーズに応じた研修会を計画、実施する。	B	・地域支援を行うための人材の育成、専門性の継承(ケース検討研修の実施、外部支援を若手教員とベテラン教員のペアで行う等) ・他障がいを有する幼児児童生徒への必要な支援の検討、継続 ・他の特別支援学校の進路担当、キャリア教育担当者との連携
		・幼児児童生徒一人一人のキャリア発達について、保護者と共に取り組むために、キャリアパスポートの活用やキャリア学習会等における成人ろう者との出会いの場の設定、就学・進路・就労に関する情報提供を行う。	A	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	幼稚部の重複学級が今年度から設置されたが、途中から重複措置となった幼児もいると思う。幼稚部3年間の重複の効果的な教育課程を作り上げてほしい。
A	聴覚障がいのある子どもたちにとってタブレット端末などは有効な学習手段であり、よく活用されている。情報モラルや情報リテラシー教育もさらに充実させてほしい。
A	教員はベテランと若手に二極化している。聴覚が専門ではない教員を対象としたミニ事例研究会など、研修の在り方を検討してほしい。
A	いじめが起こった時には、組織的に対応してほしい。日頃からの子ども同士の関係作りの取組が大切であると考えている。
A	食や清潔に関わることは家庭でもできることも多いが、性に関する指導については学校の役割が大きい。保健の授業の中で性教育で取り組むことを明記し、性に関する指導を充実させてほしい。
A	聴覚特別支援学校はどことも地域支援の中心的な役割を期待されている。教員は多忙でマンパワーが足りない状況だと思うが、人材育成に力を入れ、若い教員の外部とのコミュニケーション能力の育成に力を入れてほしい。

幼稚園	豊かな体験を通して、心身の調和的な発達を促し、主体的・対話的な活動の中で、自ら学び、考え、行動する力を培う。	・幼児の発達段階に応じて、定期的に運動遊びの時間を設定するとともに、戸外で遊ぶ時間を十分に確保し、体力・運動能力の向上を図る。【週1回以上】	A	A	A	・情報保障の意識の向上と手話や文字などの見て分かる環境づくり ・運動の場と運動量の確保(校舎改築工事に伴う中庭の閉鎖のため) ・行事と日常の保育のバランス、活動や学びに必要な時間の確保 ・話し合い活動を中心とした保育活動の充実と指導力向上のための研修の工夫 ・聴能についての専門性の継承	A	・語彙の定着に関しては、指導時間の確保とともに専門性が必要である。教員の更なる専門性の向上を期待する。 ・共通して使う掲示物はまとめて誰かが担うなど業務の効率化を図り、言語指導の時間を捻出するなどの工夫をお願いしたい。
		・日々の活動において学級、学部単位でのPDCAを繰り返し、個々の実態や課題を共有し、活動のねらい達成に向けた効果的な手段や内容を検討し、環境構成を行う。	A					
		・語彙の定着や概念形成につながる掲示を行い、教室環境を工夫する。	B					
	豊かなコミュニケーション環境を保障し、日本語の基礎を育てるとともに、専門性の継承に努める。	・生活全般を通して、情報保障への意識を高め、手話、聴覚、文字、音声等の様々な手段を活用したコミュニケーション活動を展開する。	B					
		・遊びや行事の前には「話し合い」活動を設定し、言語力の向上を図るとともに、幼児同士が経験や思いを主体的に伝え合ったり、思考を深め合ったりできるように、教師の発問や言葉かけを工夫する。	B					
		・保護者や経験の浅い教員を対象に学習会を開催し、手話や言葉の指導について学ぶ場を設ける。【年20回以上】	A					
	温かい人間関係の中で、思いやりの心を育てるとともに、自己肯定感を高め、障がい認識の基礎を築く。	・買い物学習等の校外学習において、ルールやマナーを身に付けると共に、絵カード等を活用したコミュニケーション等聴者との関わり方を学ぶ機会を設定する。	A					
		・高良内幼稚園との交流会や事前事後指導を通して、自分の障がいやコミュニケーションについて気付いたり考えたりする場を設ける。【年8回】	A					
		・合同保育や行事などでの係や学級での日直等の仕事を通して、人の役に立つ喜びを味わえるようにし、自己肯定感を高める。	A					
小学部	学力を支える語彙の拡充を目指すとともに、体力向上に向け積極的に運動に取り組む態度を育成する。	・学力を支える語彙を増やし、言葉の概念形成を促すための教室環境の整備を行う。	A	A	A	・児童の体力向上のための継続的な取組 ・教員の授業づくりやコミュニケーションに関する指導力の向上に向けた取組の検討、実施 ・交流及び共同学習について、目標の明確化と指導内容についての共有の場の設定 ・学校行事や委員会活動など、児童が他学部と関わる機会の検討、設定 ・より評価のしやすい学部目標や具体的方策の検討	A	・準ずる教育が基盤となるので、学年相応の学力や言語力について、学力テストなどの数値を伴う分析を行い、指導に役立ててほしい。 ・自立活動の指導など、様々な取組を通じて言語力とコミュニケーション力の育成を図ってほしい。
		・児童の実態に応じた発問の仕方を考えたり場の設定を行ったりして、児童の思考が深まるような授業づくりをする。	B					
		・体育や生活、総合的な学習の時間で、食育や体力向上のための取組を継続的に行い、ケア・トランポリン事業を効果的に活用して、家庭と連携しながら児童が意欲的に体力向上を目指して取り組むことができるようにする。	A					
	発達段階に応じて、意見を発表したり話し合ったりする場を設け、実践的なコミュニケーション力を育成する。	・国語や自立活動の時間における指導を中心に、コミュニケーション力の向上を目指して、言葉を手話や指文字、書字に変換したり、相手に応じて言葉を使い換えたりする実践を伴う学習の場を設ける。	B					
		・道徳や特別活動の学習において問題解決的な学習を取り入れたり、年に2回の児童総会で学部の課題を出し合い話し合ったりする機会を設ける。	A					
		・児童会や委員会活動、クラブ活動や学校行事において、高学年の異年齢集団での話し合い活動を設定する。	A					
	交流及び共同学習や他学部との交流を通して、発達段階に応じた障がい認識を深めるとともに、自己肯定感を高める。	・縦割り班活動を見直し、異学年集団の活動を工夫し、子ども同士が関りながら自分の考えを深めたり、社会性を身に付けたりする機会を設ける。	A					
		・交流及び共同学習での課題について学部で情報交換を行い、自立活動の指導と関連付けながら障がい認識の学習に繋げる。	B					
		・中学部の弁論大会や職場体験報告会に参加する機会、中学部の生徒に質問する等の、触れ合う機会を設け、児童自身の障がい理解や進路への関心・意欲の向上を図る。	B					
中学部	基礎的・基本的な知識・技能を主体的に学び、自ら活用していくための資質や能力を育む。	・教員の指導力向上及び授業改善のため、相互授業参観の機会を設ける。【年間1回以上】	B	B	B	・生徒の実態把握と教員間の共有 ・自立活動の見直し(実態に沿った指導) ・行事の精選、見直し(実態に沿った量、内容に変更) ・教科の指導法や自立活動の視点での指導法を学ぶ機会の設定	A	・年度初めに立てた目標については状況に応じて修正しながら取組を工夫していくことも必要であると考え。 ・弁論大会等を見ると、生徒の表現力や言語力、コミュニケーション能力は育っていると思う。取組の継続と生徒の更なる成長を期待したい。
		・自ら学習に向かう態度を育成するため、各教科担当者間で宿題の意図や内容、量の共有を行う。また、保護者にそれらを伝えて、協力体制をつくる。	B					
		・健康的な体づくりのため、学級活動等を活用し、生徒自らが生活習慣を確認・改善できる機会を設定する。	B					
	書記日本語を中心とした言語力と実践的なコミュニケーション力を育む。	・自立活動を充実させるため、指導内容、指導方法を学部内で共有する機会を設ける。【年間3回以上】	B					
		・学校間交流などを通し、生徒が様々なコミュニケーション方法で他者と接する機会を設定する。【年間3回以上】	A					
		・教員の手話力を向上させるため、学部朝礼の時間など利用し、簡易な研修を行う。【毎週1回以上】	B					
	障がいを含めて自己と他者を肯定的に認識し自信と誇りをもって主体的に生きる力を培う。	・生徒にとってロールモデルとなる成人聴覚障がい者を招く機会を学部として設定する。【年間1回】	A					
		・生徒の規範意識や社会性の向上のため、自立活動や特別活動にてライフスキル(ソーシャルスキル)に関する授業を実施する。	B					
		・互いの違いを理解し認め合うことができる生徒を育成するため、縦割り班での活動等、生徒同士が交流する機会を設ける。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・自立活動(帯自立)における言語指導の更なる充実
- ・聴覚障がい教育の専門性の継承及び人材育成
- ・センター的機能の発揮と充実のための校内組織改編
- ・情報保障を意識した環境づくりと授業力の向上のための取組

評価項目以外のものに関する意見	
・校舎改築の予定を関係機関と共有してほしい。	